

経営比較分析表（令和3年度決算）

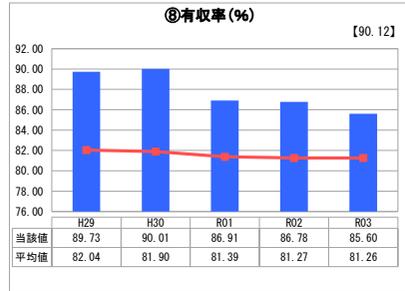
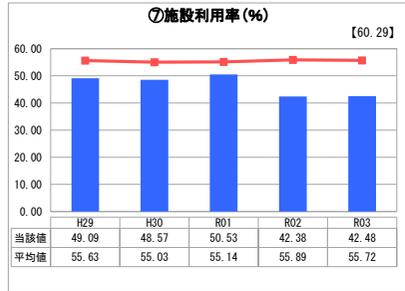
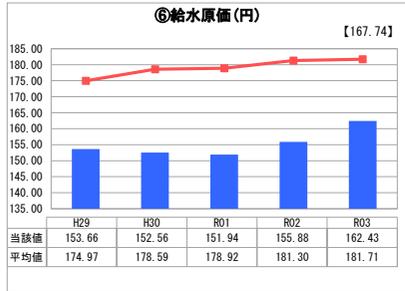
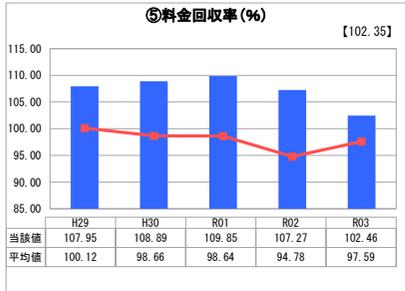
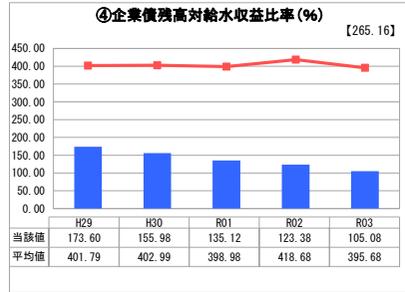
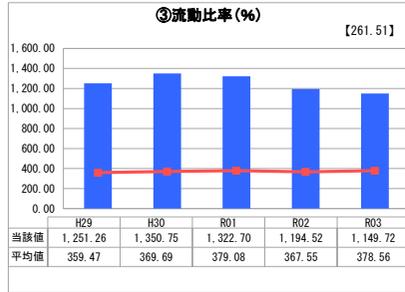
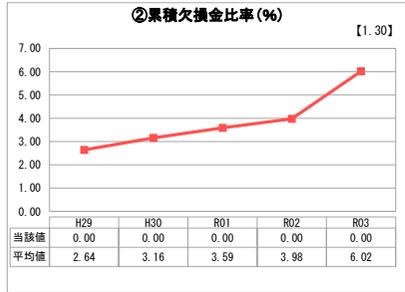
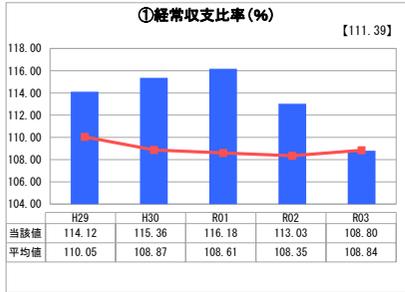
佐賀県 小城市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	90.63	40.66	3,410	

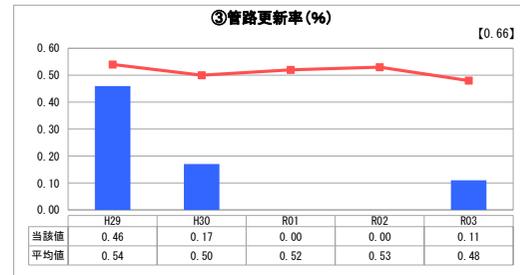
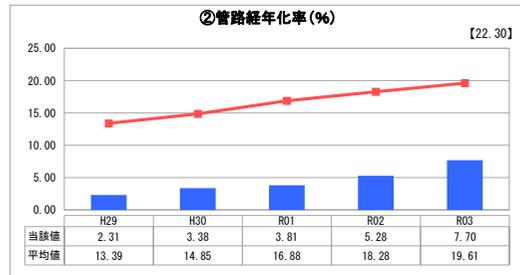
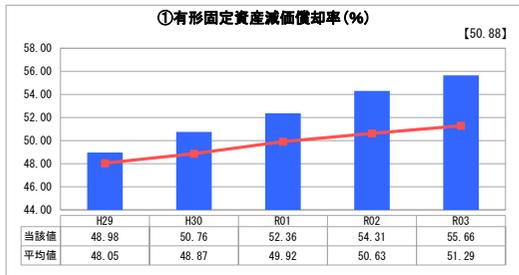
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,639	95.81	465.91
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,116	20.87	868.04

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析概

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、前年度と比較すると4ポイント低下したものの100%以上を推移しており累積欠損金も発生しておらず健全な経営状態を維持できている。
 流動比率や企業債残高対給水収益比率は類似団体平均と比べて良好な状況を保っている。近年、企業債の新規の借入をしていないため、企業債残高対給水収益比率は減少傾向である。
 料金回収率は引き続き100%以上をキープできているものの人口減少により水需要の低下が続いているため先行に不安が残る。
 給水原価は年々増加傾向にあり、これは受水費によるものである。用水供給事業体からの受水量を減らさず浄水量を調整している結果、受水費の割合増加、施設利用率の低下が進んでいる。今後、適正規模での施設の更新等を検討する必要がある。
 布設から30年以上経過したビニール管の管線で漏水が増加傾向にある。予防を含めた計画的な管路の更新が必要となっている。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は50%以上と類似団体平均値を上回っており、老朽化が進んでいる。
 管路経年化率は低いが、有収率が述べたとおり同一管路での漏水が増加傾向にある。
 法定耐用年数を超えた管路がほとんどないためこれまででは、道路拡張工事や下水道整備など公共工事にあわせて更新工事を行ってきたが、漏水の頻度や将来の更新需要を見据えた更新計画が必要である。

全体総括

現状は経営の健全性が保たれているものの、給水人口の減少により給水収益は低下する一方で、老朽化していく管路や施設の更新に要する費用は増加していくことが想像に容易い。
 将来にわたって安定的に事業を継続していくため、令和4年度から水道ビジョン経営戦略の策定を行う予定である。
 令和5年度には水道ビジョン経営戦略や施設の更新計画を含めた各種計画の策定完了を目指しており、長期的な経営の安定に向けて取り組んでいきたい。